

# 恋するイケメンの 心ニハエハウス

イケメンたちとのヒミツの  
同居生活はドキドキです!

---

あおやま  
青山そらら / 著  
てんきや  
お天気屋 / イラスト

ぜん いん  
全員 中学

ねん せい  
一年生 だよ

たちばな しづき  
橘 紫月

琴梨のクラスメイト。びつくりするほど整った顔とバツグンのスタイルで、今人気急上昇中のモデル。女子への警戒心が強く、琴梨がシエアハウスで暮らすことにもさよつと反対……？

はるな ことり  
春名 琴梨

人見知りの性格で、クラスではぼつち気味。小さいころにお父さんを亡くし、働くお母さんの代わりに、家事を手伝っていた影響で料理が得意。お母さんのリストラがきっかけで、シエアハウスから学校に通うことに。

# 東堂 蓮

イケメンだけど目つきが悪くてぶっきらぼう。怖いウワサがあるけれど、意外と優しいみたい……？

# 双葉 凜寧

かわいい系のビジュアルで、女子から大人気。優しいけれど、なにか琴梨には知られたくないことがあるように……？

# 藤井 絢世

琴梨のクラスメイト。明るくフレンドリーな性格のイケメンで、ムードメーカー的存在。大企業の御曹司で、超セレブ。

# もくじ

こい  
恋するワケあり♡シェアハウス

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
あやせ	ねん	ふかく	ちぢ	しづき	まら	どうきよにん	ぜんいん	どうきよにん	とつげん	プロローグ
絢世くんとのデート!?	蓮くんの素顔	不覚【紫月side】	縮まる距離	紫月くんがピンチ!	嫌われちゃった?	同居生活スタート	同居人は、全員ワケあり男子!?	ヒミツのシェアハウス	突然の引越	
087	077	072	061	050	044	037	026	016	006	005
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	
わたし	だいじ	ふじ	ストーカー?	やさ	りんね	ちよつとした親切	しんせう	もくげきしょうげん	あやせ	
私の居場所	大事な仲間	無事でいてくれ【紫月side】		優しい紫月くん	凜寧くんのヒミツ		ウワサの真相	目撃証言	絢世くんの悩み	
166	155	149	142	132	124	117	111	103	098	



# 1 プロローグ

家の事情で、突然引越すことになった私。

理事長から紹介されたのは、まさかのヒミツのシェアハウスで――。

しかも同居人は、全員イケメン男子だったの！

「かわいい子が来てくれてうれしいな〜」

御曹司のセレブ男子だったり。

「……おう、よろしく」

目つきの悪い不良男子だったり。

「仲良くしてね」

笑顔がキュートな猫系男子だったり。

「無理。女子が来るとか聞いてねーし」

クールで不愛想なモデル男子だったり……なにやら全員ワケありみたい!?

ドキドキだらけの同居生活、はじまります！

## 2 突然の引越

「おはよーっ！ 昨日の配信見た？」

「見た見た！ 超面白かった〜」

楽しそうな笑い声が飛びかう教室で、ひとり席に座って本を読む。

私は春名琴梨。この春中学二年生になったばかり。

受験勉強をがんばって、あこがれの私立三ツ星学園に入学できたのはいいけれど、人見知りな

性格のせいで、いまだに女子グループの輪には入れず、ぼっち気味。

クラスメイトはみんないい人ばかりだし、居心地は悪くないんだけどね。

ちなみに趣味は、読書と料理だよ。

うちは私が小さいころにお父さんが亡くなっていて、お母さんとふたり暮らし。

働くお母さんを助けるために家事を手伝っていたら、いつのまにか料理が大好きになって。今

では毎朝早起きしてお母さんと自分のお弁当を手作りしているんだ。

今日のハンバーグは特に上手に焼けたから、食べるのが今から楽しみなの。

そんな時、前の席で派手な女の子ふたりがワイワイ盛り上がっている様子が目に入って。

「見て見て、『ポラリス』の最新号！ 紫月くん目当てで買ったよ」

「いいな。私にも見せて！」

彼女たちが見ていたのは、今中高生に大人気のファッション雑誌。

「やっぱり紫月くん超イケメン！ スタイル良すぎっ」

「やばいよね。この顔見るだけで幸せ」

話題になっているのは、イケメン中学生モデルの橋紫月くん。私たちと同じ年。

デビューしてまた一年くらいなんだけど、そのビジュアルのよさから今人気急上昇中で、

Sのエスのフォロワー数もかなり多いみたい。

しかもその紫月くんは、なんと――。

「こんな人気モデルを毎日生で拝めるなんて、最高だよね」

「同クラとか、超自慢なんだけど！」

そう。じつはクラスメイトなんだ。

といっても人見知りな私は、一度も話したことがないんだけどね。

「きゃーっー」

すると突然、教室の入り口あたりから女の子たちの叫び声が聞こえてきた。チラリと視線を向けると、そこにはスラツと背の高い男の子の姿があつて。

「あつ。紫月くん来たー！」

「おはよーっ！ 紫月くん」

目の前で話していた女の子たちも、すぐさま雑誌を置いて彼のもとへと駆け寄っていく。とたんに女の子たちの集団に取り囲まれる紫月くん。

ただど彼は、キヤーキヤー言われても表情を変えることなく。

「……おはよ」

いつもどおりクールにあいさつを返す。

そう。紫月くんはこんなふううに塩対応なことで有名で、モてるのに全然女子に興味がなさそうなんだ。

でも女の子たちからは、「そごがまたカッコいいいー！」って言われてるんだよね。

サラサラの黒髪に切れ長の瞳、透き通った白い肌。びっくりするほど整った顔とバツグンのスタイルは、思わず見とれてしまいそうなほど。

そのうえスポーツ万能で成績も優秀だから、みんなからは完璧男子って言われている。

そしたらそこにもうひとり、茶色い髪をハイ  
フアップにしたイケメン男子がやってきて。

「おはよ、紫月！」

ポンと肩をたたかれた紫月くんが、うしろを  
振り返る。

「ああ、おはよ」

「あいかかわらずモテモテじゃーん」

なんてからかうように笑う彼は、同じくクラ  
スメイトの藤井絢世くん。

「きゃーっ！ 絢世くんおはよー！」

「おうっ。みんなもおはよー」

あやせ 絢世くんは寄ってくる女の子たちに、ニコニ

コ笑顔で挨拶を返す。

彼はこんな感じでもっともフレンドリーで、  
クラスのムードメーカー的存在なの。



しかもなんと、『F.U.J.グループ』という大企業の御書司で、超セレブなんだよ。  
紫月くんと絢世くんはうちのクラスでツートップと呼ばれるモテ男子で、性格は対照的だけ  
ど、じつはすごく仲がいいみたい。

私はたぶん、ああいうキラキラした男の子たちとかかわることはないだろうなあ……。  
そんなことを思いながら、手に持っていた本へと視線を戻した。

——キーンコーンカーンコーン。

お昼休み、いつものようにお弁当を持って教室を出た私。

天気の良い日のお昼ごはんは、中庭で食べることにしているんだ。

中庭へ向かって歩いていたら、向こうから見覚えのある長身の男の子がひとり歩いてくるのが  
見えた。

近くにいた男子たちが彼を見て、ヒソヒソとささやく。

「やばっ。東堂だ！」

「あいつ、またケンカしたんじゃないね？ 今日も顔に傷できてるぞ」

彼、東堂蓮くんは同じ二年生で、ちょっと不良っぽい見た目の男の子。

イケメンだけと目つきが悪くてぶっきらぼうだから、みんなから恐れられているみたい。

私は同じクラスになったことはないけれど、「ケンカ最強」だが、「目を合わせたら殺される」なんて言われているから、ちょっと怖い。

一年生の時にトラブルを起こして、学園の寮を追い出されたってウワサだし……。

もちろん、ウワサや見た目だけで人を判断しちゃいけないとは思っただけだね。

そんな時、ふいにこちらを見た蓮くんと、バチツと目が合ってしまった。

あっ………！

その鋭い目つきにビクツとして、あわてて視線をそらす。

ど、ど、ど、ど、ど、ど。もしかしてにらまれた!?

シロシロ見てんじゃねーよって思われちゃったかな？

怖くなった私は、とっさに歩くスピードを上げて、逃げるようにその場を去った。

「ふう、あせった〜」

中庭に着いた瞬間、ホツとして胸をなでおろす。

それにしても私、さっきいきなり目をそらしたのは、感じが悪かったよね。

蓮くんは目を付けられちゃったらどうしよう……。

なんてあれこれ考えながらも、いつもお昼を食べている大きな木の下へと向かう。  
この木陰は、私の特等席なんだ。

すると、そこにひとりの男の子が寝転んでいて姿が見えて。

……あれ？ 誰かいる？

めずらしいなあ、ここに人がいるなんて。しかもよく見たら知ってる顔だ。

彼はたしか、三組の双葉凜寧くん。

真っ白な肌は、長いまつげ、色素の薄い髪。一見女の子とまちがえるほどかわいい顔をした凜

寧くんは、女子たちから大人気みたい。

こんなに関近で見たのははじめてだけど、ほんとにキレイな顔をしてるんだなあ。

寝顔があまりにかわいくて、ついついじっと見ちゃうよ。

でも起こしちゃったら悪いし、ちよっと離れたところで食べようかな。

そう思った私はそのまま木陰を通りすぎ、中庭にあるベンチに腰かけた。

「いたたまきまーす」

お弁当のふたを開け、両手を合わせる。



最初に口にしたのはもちろん、ハンバーグ。

うん、上出来！

われながらとつてもおいしくて、思わず顔がにやけそうになる。

そんな時、ふとポケットに入っていたスマホがブルツとふるえたことに気がついて。

すぐさま取り出して確認したら、お母さんから一通のメッセージが来ていた。

【大事な話があるから、今日はなるべく早く帰ってきてね】

えっ。大事な話？ しかもなるべく早くって……お母さん、いつも帰ってくるの遅いの。なにかあったのかな？

なんとなくたまたまじゃないような気配を感じて、急に不安になってしまった。

放課後。まっすぐ家に帰った私は、さっそくお母さんにたずねてみた。

「お母さん、話ってなに？」

そしたらお母さんは、机の上で手を組みながら。

「ごめんね琴梨。おどろかせてしまうかもしれないけど、聞いてちょうだい」「

お母さんの表情が、いつになく暗くてドキッとす。

「じつはお母さん……リストラされちゃったのよ」

「ええっ!!」

リ、リストラって、会社をクビになったってこと!?

あんなに毎日一生懸命働いてたのに!

「ずっと会社の経営が厳しくてね。覚悟はしてたんだけど……。だから、ごめんなさい。もうこの家には住めないの。無職になったら家賃を払えなくなっちゃうから」

「ウ、ウンッ……」

ってことはつまり、引越すの!?

じゃあ学校はどうなるのかな?

とおもってたら、続けてお母さんが。

「ほんとは学校だけでもこのまま通わせてあげたかったんだけどね。三ツ星学園は名門私立で学費も高いでしょ。払い続けるのが厳しくて……。申し訳ないけど、今月いっぱいまで転校してもらわないといけないのよ」

「ええっ?!」

今月いっぱいって、あと一週間しかないよね?

そんな急に……。

「琴梨、お母さんのせいで本当にごめんね」

苦しそうな顔で言われたら、なにも言えなくなっちゃう。

どうしよう。シヨックだけど、お母さんだってシヨックだよね……。

予想外の事態に、私はただ呆然とすることしかできなかった。

### 3 ミミズのミミズハウス

お母さんのリストラから数日がたった。

引っ越しの日が、着々と近づいてきている。

ちなみに来月からお母さんの再就職先が決まるまでは、遠くに住んでいるおばあちゃんのお世話になることになったんだ。

学校も、その近くの公立中学へ転校する予定みたい。

転校、かあ……。

努力してせっかく入れたあこがれの中学校だったけど、しかたがないよね。

三ツ星学園には学園寮もあるけれど、寮に入るのたってお金がかかるし。

私立で学費も高いから、お母さんにこれ以上苦労はかけられないもん。

お母さんとふたり、歩いて理事長室へと向かう。

今日は転校手続きのために放課後お母さんと待ち合わせをしたんだけど、なぜか理事長に呼ばれたみたいなの。

理事長と直接話をするのははじめてだから、ちょっと緊張しちゃうな……。

——コンコン。

ドアをノックすると、中から「どうぞ」と声がする。

「失礼します」

中へ入って頭を下げると、机の前に白髪の理事長が笑顔で座っていた。

「どうも、お久しぶりです。春名さん」

なぜかお母さんを見るなり、そう声をかけた理事長。

えっと、お久しぶりってことは……理事長はうちのお母さんと会ったことがあるってこと？

なんで？

「えっ。えーっと……」

戸惑うお母さんを見て、理事長がクスツと笑う。

「さすがに十年も前のことだし、覚えていないかな。私は一時期入院していたことがあってね。

その時、隣のベッドにいつもお見舞いに来ていた春名さん親子と会ったんですよ」

それを聞いて、ふと思い出す。

そういえば昔、まだお父さんが生きていたころ。